４章　総合問題４

問題

【1】

A.

全訳

すべての文化は，変化の根源である発明者と発見者とを生み出すが，もしも変化がその集団に属する者の発明の才によってしか起こり得ないのならば，急速に進歩する集団はないだろう。もしも変化の機会がそれほど限られているならば，我々はみんな，いまだ石器時代に生きていることだろう。個々の社会に関する限り，その社会の進歩は，そこに属する者たちが，他の社会のもつ道具や技術や思想と接触し，自分たちにはない方法や形式の利点を進んで認め，もしこれらの方法や形式を受け入れたいと思うならば，それらを受け入れる機会をもった結果なのである。現代文明の複雑さのうち，それぞれの社会が育んだ天才によってもたらされたのはほんの一部である。現代文明が複雑なのは，むしろ，我々の祖先たちが数えられないほどの世代に渡って，進んで他の人々のやり方の長所を見て，それらを取り入れることが都合がよいとわかった時に，自分たちのものとして取り入れてきたためである。

B.

全訳

しかし，牡蠣（かき）の貝殻は結婚の永遠の象徴なのだろうか。ヒノデ貝の殻同様，永遠に存続するはずがあろうか。人生の波は引いていくものだ。家は，休眠状態となる縁側や納屋が増えるにつれ，少しずつ空っぽになっていく。子供たちは学校に上がり，やがては結婚やそれぞれの人生へと巣立っていく。大部分の人は中年までに，世の中における自分の場所を獲得しているか，あるいは獲得しようとあがくことをやめているかである。人生，場所，人間，物質的な環境および財産に対するあの固執――それは自分の安定，あるいは子供の安定を求めてあがいていた時に必要だったのと同じくらい必要なのだろうか。成功，あるいは失敗によって，現実の苦労の多くは終わっている。牡蠣の殻はそこまで，岩にはりついている必要があるのだろうか。

【2】

ポイント

記述式説明問題，和訳問題，記号選択問題をまんべんなく含んだ，標準的な国公立型の入試問題である。大阪府立大学では例年，大問３題中２題が長文読解問題，１題が和文英訳の出題となっているが，今回はそのうちⅠの長文読解問題を取り上げた。標準的な難度で，英文中にそれほど難解な語も含まれないので，いかにミスなく正確に答えるかが合否の分かれ目となる。

解答

（1） ⓐ **b**　ⓓ **e**　ⓙ **d**　ⓚ **b**

（2） 「**全訳**」の下線部ⓑ参照。

（3） ⓒ **a**　ⓔ **d**　ⓖ **c**　ⓘ **a**

（4） 「**全訳**」の下線部ⓕ参照。

（5） 「**全訳**」の下線部ⓗ参照。

（6） 偉大な学識は，うぬぼれや自己満足，嫉妬につながること。

解説

（1） 空所の位置と選択肢を見て，関係詞を入れる問題だと気づくだろう。関係代名詞は，それを含む節の中で主語や目的語の役割を果たすこと，関係副詞は‘前置詞＋関係代名詞’の機能を果たし，‘時・場所・理由’を表す語を先行詞にとるという文法上の原則をふまえて，文脈に合う意味を持つように空所を埋めていけばよい。

ⓐ 直後に is という動詞と now Germany という補語があるので，主語の役割を果たすものが入るとわかる。先行詞がないので，先行詞を含む関係代名詞 what「～というもの〔こと〕」を入れ，「今はドイツである所」という意味にする。

ⓓ 先行詞は the culture。文脈から「彼女（＝シンデレラ）が登場する文化」という意味にすればよいことがわかる。文化の中に登場するのであるから，直前に in がある。‘前置詞＋関係代名詞’の形は that では作れないので，which を入れる。

ⓙ 直後が they lived all their lives と完全な文になっており，ⓙには主語も目的語も入れなくてよいことから，関係副詞を入れる。先行詞の the German kingdoms とつながるものは，in which と同じ意味を持ち，場所を修飾する関係副詞 where である。「彼らが一生暮らしたドイツ王国」の意味になる。

ⓚ 空所の後には would have been Jacob's one hundredth birthday と動詞と補語が続いているので，空所に入るのは文の主語であることがわかる。また，先行詞がないのでⓐと同様に，先行詞を含む what を入れる。「（もし生きていれば）ヤーコブの 100 回目の誕生だったであろうこと〔日〕」となる。

（2） Although they would have numerous accomplishments,

S’　V’　O’

they would *be best known* 〈*for* the words {that begin this paragraph:

S　V

“Once upon a time”} 〉.

○下線部に含まれる would は，直前に … two brothers were born in ～ とあるので，兄弟が生まれた時点から見た未来を表していると考えられる。「彼らはその後，数多くの業績を残すことになるのだが」といった意味になる。

○ be best known for ～「～で最もよく知られている」

○ the words that begin this paragraph: “Once upon a time”：that 以下は the words を先行詞とする関係代名詞節。this paragraph の具体的内容が，Once upon a time である。

（3） ⓒ この long は副詞で「長い間」という意味である。下線部は「グリム兄弟以前に，

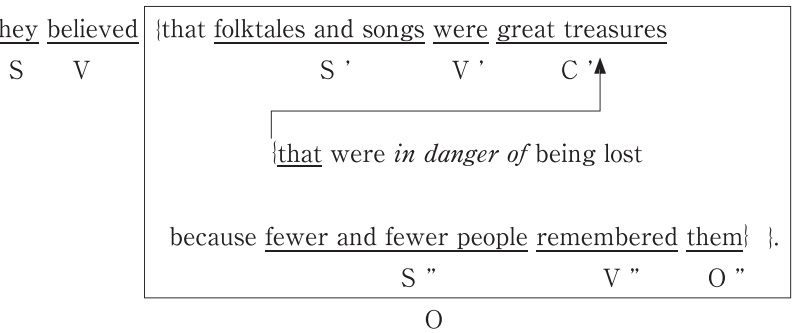
長い間存在した」の意味であるから，**a** の「グリム兄弟のずっと前に始まった」が正解。他の選択肢の意味はそれぞれ次の通り。**b**「グリム兄弟の正面に長い期間存在した」この選択肢中の while は，for a *while* などといった表現と同様，「時間」の意味である。**c**「グリム兄弟の直後に存在した」，**d**「グリム兄弟がそれらを短くするまで長かった」。

ⓔ　この for は「～を求めて」の意味と考えればよい。sign は「兆候」，fading「衰えていく；薄れていく」，attention「注意力」である。よって，the storyteller から下線部までの直訳は「衰えていく注意力の兆候を求めて，語り部は聴衆を見る」となる。「語り部に向けている聴衆の注意力が散漫になってきたな，という兆候に注意する」ということである。正解は **d**「彼らの注意が衰えてきているかどうか気をつけるために」となる。他の選択肢の意味はそれぞれ次の通り。**a**「なぜならそれは，衰えてきた注意力の兆候を示すからである」，**b**「なぜなら彼らの注意力が少なくなったからである」**a** と **b** はどちらも for を‘理由’ととらえているので誤り。**c**「減少した興味の兆候を除いて」。

ⓖ　themselves は Jacob and Wilhelm ではなく，lives のことである。よって下線部は「ヤーコブとヴィルヘルムの生涯自体が，１つの物語である」の意味になる。正解は **c**「グリム兄弟の生涯は１つの物語でもある。」である。その他の選択肢の意味は次の通り。**a**「ヤーコブとヴィルヘルムも，彼ら自身についての物語を語った」，**b**「ヤーコブとヴィルヘルムも，彼らの物語のうちの１つになった生涯を送った」**a** と **b** は「自身についてを物語にした」という記述が本文にないので不適。**d**「ヤーコブとヴィルヘルムの生涯は，２つの異なった物語であった」。

ⓘ「しかし，彼らの苦しみとともに，多くの喜びもやってきた。」倒置が起きている文なので，主語は much joy，動詞は came である。**a**「しかし，これらの困難にも関わらず，彼らは多くの喜びを持った。」が正解。**d**「彼らの苦しみは，しかしながら，彼らに多くの喜びをもたらした。」がまぎらわしいが，苦しみもあったが，喜びも多かったというのが下線部の意味するところであり，**d** のように「苦しみのおかげで，喜びがあった」ということではない。他の選択肢の意味は次の通り。**b**「しかし，こうした困難が来る時にはいつでも，彼らには多くの喜びがあった。」，**c**「彼らの戦い以外では，多くの喜びが彼らのところにやってくることができたであろうに。」。

（4）



○ believe の目的語は１つ目の that から最後まで。その中に that で導かれる関係代

名詞節があり，その先行詞は great treasures である。

○ be in danger of ～「～の危機に瀕している」訳す際のポイントとしては，because 以下が，were in danger of being lost に係ることを反映した日本語にすることである。それら（＝民話や民謡）を覚えている人がどんどん少なくなっていったために，失われる危機に瀕することになったのである。

（5） 構文は難しくないので，それぞれの語句の意味を正確に訳すことが求められる。

◇ They were made to face hardships when they *stood up for* what they believed.
S　V　S'　V'　O'

○ They were made to face hardships：使役動詞 make の受動態である。能動態では‘make ＋O＋動詞の原形’だが，受動態になると‘be made to 動詞の原形’となることを確認しておこう。

○ stand up for ～「～を擁護する」もしこの訳語を思いつかなければ，「～のために立ち上がる」でも十分に意味は通じる。

○ what they believed「彼らが信じること」what は先行詞を含む関係代名詞である。

◇ They had to *deal with* sorrow as people {(whom) they dearly loved} died.
S　V　O　S'　V'

○ deal with ～「～に対処する」，dearly「非常に」の意。

○ as …　ここでは「…する時」の意味。

○ they dearly loved は people を先行詞とする関係代名詞節で，目的格の関係代名詞 whom〔that〕が省略されている。

（6） 下線部以降の文は，「それはヤーコブとヴィルヘルムの場合には起きなかった」の意。このような指示語の内容は，原則的にはその直前部分を探していけば答えが見つかる。文脈をさかのぼると，直前に「偉大な学識が，かなりしばしばうぬぼれや自己満足，嫉妬につながる」とあり，そのことがヤーコブとヴィルヘルムの場合には起きなかった，と考えれば自然な流れになるだろう。よって，while great learning ～ and jealousy の部分をまとめればよい。

全訳

昔々，といっても確かに実在した時代に，さらに言えばジョージ・ワシントンがまだ軍隊の将校で，アメリカ合衆国の初代大統領になることをちょうど考えていた時に，２人の兄弟が，今はドイツである所で生まれた。ⓑ彼らはその後，数多くの業績を残すことになるのだが，この段落を始める言葉，つまり「昔々」という言葉で，最もよく知られることとなる。生涯を通じて，この兄弟，ヤーコブとヴィルヘルム・グリムは王や皇帝のために働き，言葉を理解するための新しい方法を発明し，初めての近代ドイツ語辞典を作った。しかしながら，我々が彼らを記憶に留めているのは，主に彼らが収集したおとぎ話――２世紀余りの間，至る所で人々を楽しませてきた，白雪姫，シンデレラ，赤ずきんや，その他の話のためである。

これらの話は，グリム兄弟よりもずっと前から存在した。おとぎ話は，人間の文明と同じほど古い口頭伝承の一部である。例えば，有史以前のある時点で，中国で最初に登場して以来，シンデレラはずっと，あらゆる大陸で，暖炉を囲んで，また枕元で語られてきた。彼女の履き物はいつもガラスとは限らないし，彼女の馬車は必ずしもかぼちゃでできているとも

限らない。そうでなくて，彼女の着ているものや馬車は，彼女が登場する文化によって変化するのである。エジプトでは，彼女の履き物は赤い革で，西インド諸島では，かぼちゃはパンノキの実に置き換えられるのだ。

すべての民話やおとぎ話がそうであるように，語り部たちは，聴衆の関心が途切れつつあることを示す兆候に注意を払い，聴衆が耳を傾け続けるように，話を少々変えるのである。グリム兄弟はそうした語り部のようであり，我々はその話に魅了される聞き手のようなものである。一生の多くの時間を，グリム兄弟は他の語り部の話を聞き，将来の世代のために書き留めることのできる民話を求めて，古い本の中を探した。ⓕ民話や民謡は，記憶している人がどんどん少なくなっているために失われる危機に瀕している，偉大な宝であると彼らは信じていた。しかし，彼らのおとぎ話のコレクションをまとめる時に，彼らは自分たちが想像し得たよりも多くの人たちにとっての宝を作り出した。というのは，グリム兄弟が語り直した話は，他の誰によって語られた話よりも有名になったからだ。世界中の人々の心の中に，彼らの名前と「昔々」という言葉を永遠に刻み込んで。

ヤーコブとヴィルヘルムの生涯自体が，１つの物語である――ほとんど双子のように育った２人の兄弟の物語である。彼らの絆は非常に強く，生涯のほとんどをともに過ごした。年若い少年であった頃には，部屋を共有し，ともに学び，遊んだ。学校へ送られて，のちに大学でも，彼らは一緒に下宿した。実際，生涯の大部分を，兄弟はともに働き，暮らした。ヴィルヘルムが結婚した後でさえも，ヤーコブは彼ら夫妻と一緒に暮らした。ヴィルヘルムの息子，ヘルマンはのちにこのように言ったものだ。「兄弟は（２人で）１つの家，１つの書斎，１つの財布を持っていた」と。

もし彼らの話が友情の話であるとすれば，それはまた，勇気と大変な努力の話でもある。彼らは貧困や病と闘わなければならなかった。外人の兵が，彼らの町を掌握していくのを，彼らは見なければならなかった。ⓗ自分たちの信じるものを擁護した時，彼らは困難に立ち向かうことを強いられた。深く愛する人々が亡くなった時には，彼らは悲しみに対処せねばならなかった。

しかし，彼らの苦しみとともに，多くの喜びもやってきた。彼らは一生住んだドイツ王国の偉大な作家や芸術家と友達になった。彼らは平和な時も，戦時にも王のそばで働いた。彼らは国家の英雄となり，世界中の作家や学者の尊敬を得たのである。

ヤーコブの 100 回目の誕生日だったであろう日の祝宴で，１人のドイツ人学者が次のように言った。偉大な学識は，うぬぼれや，自己満足や嫉妬につながることがかなりよくあるのだが，そういったことはヤーコブとヴィルヘルムの場合には起きなかった。そうではなく，人生で一番よい時，名声の絶頂にあって，彼らは気取らない，心優しい人たちであり続けた。政治家や詩人に対してと同様，子供たちに対しても心を寄せたのである。

注

ℓ. 6 ◇ Grimm「グリム兄弟（the Grimm Brothers）」Jacob（1785―1863）, Wilhelm（1786―1859）の２人で，『グリム童話』の編集者として有名。

ℓ. 8 ◇ fairy tale「おとぎ話」

ℓ. 14 ◇ coach *n.*「（昔の）大型４輪馬車」

ℓ. 16 ◇ breadfruit *n.*「パンノキの実」

ℓ. 17 ◇ as with ～「～の場合と同様に」
ℓ. 19 ◇ fascinate ～ *vt.*「～を魅了する；～の興味をそそる」
ℓ. 28 ◇ bond *n.*「絆」
ℓ. 30 ◇ room *vi.*「下宿する」
ℓ. 36 ◇ capture ～ *vt.*「～を攻略〔占領〕する」
ℓ. 44 ◇ at the top of ～「～の絶頂で」
ℓ. 45 ◇ sympathize with ～「～に共感する；～と同感である」

【3】

ポイント

今回は「与えられた単語を用いて英文を書く」という問題である。必ずしも具体的な事例や科学的根拠に基づいて論理的に話を進める必要はないし，面白い話を書く必要もないが，全体として一貫したストーリーなり意見なりが相手に伝わるような書き方が求められる。

解答例

When I was walking to school, something flashed suddenly. The next instant, a black object was flying in front of me. It was a UFO! Two aliens came out of it and spoke to me in English. They said they were interested in our planet and had studied English. They asked me about our life and I asked them about their civilization. We became good friends.（66 語）

別解

Thousands of so-called UFOs have been reported and I have seen several pictures which are supposed to be of UFOs, but almost all of them are probably of meteors, planets, artificial satellites, or birds. There is no definitive evidence that any creatures exist on planets other than the earth. I do not believe in UFOs, much less aliens or any civilizations other than our own.（65 語）

別解

I actually saw a UFO when I was a child, or at least I believe it was a UFO. There have been many reports that suggest the existence of UFOs. If UFOs exist, then we can assume that aliens operate them, and that other civilizations exist on other planets. It's exciting to imagine that some day I may come across aliens and communicate with them.（65 語）

解説

alien，planet，UFO といった語句から，ＵＦＯと宇宙人についてまとめればよいことは明らかである。創作物語風のものを書くなら，自分の解答に矛盾のないように気をつける必要がある。創作物語は自由度も高く取り組みやすいので，書いているうちに内容が設問から逸れてしまったり，語数オーバーしたりしかねない。書き終わった後に必ずわかりにくい点がないかどうか確認するとともに，語数のチェックをすること。また，わかりやすい構成のためには「起承転結」の考え方が１つのヒントになるだろう。

エッセイ風のものを書くなら，ＵＦＯや宇宙人が存在すると思うか，あるいは存在しない

と思うかを論じることになるだろう。その場合は，60 語という語数の中で両方の説について論じることは難しいし，また内容の焦点をぼやけさせることにもなりかねない。どちらか一方に決めてかかるべきであろう。

ＵＦＯや宇宙人の存在を信じないという立場で論じるとすれば，例えば①「ＵＦＯに関する報告やその写真だと言われているものはたくさんある」→②「しかし，そのほとんどは隕石や人工衛星，鳥など他のものである」→③「地球以外の惑星に生物がいるという証拠はない」→④「ＵＦＯや宇宙人の存在，あるいは地球以外の場所にも文明が存在するという説を信じることはできない」といった書き方ができる。

存在を信じるという立場で論じるとすれば，①「ＵＦＯを見たという証言やＵＦＯと思われるものの写真が数多くある」→②「もしＵＦＯが存在するとすればそれを操縦する宇宙人，そしてさらにその宇宙人の住む文明社会の存在も否定することはできない」→③「少なくとも私はそうしたものの存在を信じているし，いつか宇宙人に会うことがあるかもしれないと考えるとわくわくする」といったような書き方ができる。２つ目の**別解**はこの立場で論じたものであるが，書き出しを「私は子供の頃，本当にＵＦＯを見たことがある」としてある。このような思い切った書き出しにすれば，読む人の興味を引き，また強い印象を残すことができる。

○「いわゆるＵＦＯ」a so-called UFO。so-called には「本当かどうか疑わしい」という含みがある。

○「～だと思われている」be supposed to be ～。この表現には，「多くの人はそうだと考えているが私（＝発話者）はその信憑性にいくらかの疑いを持っている」というニュアンスが含まれる。

Ex. The castle *is supposed to* be haunted.（その城は呪われていると思われている。）

○「隕石」a meteor

○「人工衛星」an artificial satellite

○「私はＵＦＯを見たことがない。」I have never seen any UFOs. とする。never を前に出して強調すれば Never have I seen any UFOs. という倒置の文になる。

○「…であるという証拠はない」There is no evidence that …。evidence には同格の that 節を続けることができる。evidence の前に definitive や scientific などの形容詞を付ければ「…という確固とした証拠はない」，「…という科学的な根拠はない」のような意味を加えることができる。

○「宇宙人」an alien の他に a creature from outer space（宇宙からやってくる生き物）といった表現もある。

○「文明社会」a civilization。この意味での civilization（= a society that is well organized and developed）は可算名詞である。

○「地球以外の惑星」planets other than the earth

○「～の存在を信じる」believe the existence of ～。believe in ～でもこの意味を表すことができる。

Ex. I don't *believe in* ghosts.（私は幽霊などいないと思う。）

○「もし～だとすれば，それは…ということだ」If ～ , then … とする。then を入れること

により，「そういうこと〔事情〕なら」という意味がより明確になる。

○「宇宙人がＵＦＯを操縦する」an alien operates a UFO

○「…だと想像するとわくわくする」It's exciting to imagine …

○「宇宙人とコミュニケーションをする」communicate with an alien，hold〔have〕communication with an alien

【4】

解答・解説

（1） should

「理論と実践は相伴うべし。」

○この should は‘義務’を表す。

○ go hand in hand「手に手を取って行く」

（2） used to

「彼女は昔は彼を愛していたが，今では彼を嫌いなようだ。」

現在との対比を表す過去の状態（状態動詞）は used to を用いる。

（3） mustn't

「君はマッチをすってはいけない。部屋にはガスが充満している。」

‘禁止’を表すのは must not。needn't は「不必要」を表す。

（4） don't have to

「今行かなければいけない？」「いや，その必要はない。」

この場合 don't have to …「…する必要はない」がふさわしい。

（5） were able to

「２時間漕いで，我々はその湖を渡れた。」

「単一動作の実行」を表す場合は，could ではなく were able to を用いる。

（6） didn't，may not

「彼が町にいた間にどうして私を訪ねてくれなかったのかわからない。彼はそうする時間がなかったのかもしれない。」

「彼が町にいた間」という過去のことを表すので didn't がふさわしい。

‘過去時の事柄に対する推量’を表すのは may have 過去分詞。

（7） can't

「彼はたった今出かけたばかりなので，そんなに遠くに行っているはずはない。」

‘強い否定の推量’を表す用法。can't（…のはずがない）⇔ must（…に違いない）

（8） have finished

「私が仕事を終える頃までには雨が降りやむだろう。」

「時や条件を表す副詞節の未来完了の事柄は，現在完了形で表す」という原則に従って have finished を選ぶ。

（9） called

「たった今彼に電話したところだ。」

just now は通例現在完了形とともには用いない。

「たった今」の意では過去形，「ちょうど今」の意では現在形，「今すぐ」の意では未来を表す表現。

【5】

解答

（1） **c**　（2） **b**　（3） **b**　（4） **a**　（5） **a**

解説

（1） A：「ピーターが出て行った時，雨が降っていたかい。」
B：「そうだったに違いないよ。さもなければ彼は傘を持って行かなかっただろう。」
○ must have 過去分詞「…したに違いない」
○ he wouldn't have taken his umbrella が仮定法過去完了の帰結節で，その条件になるものが空所に入る。
○ otherwise ＝ if it had not been raining when he went out,

（2）「ウィリアムがいなかったら，その道を発見することは決してなかっただろう。」
○（　　）William が仮定法過去完了の条件を表す。
○ without ～＝ but for ～＝ if it had not been for ～「～がなかったならば」
〔＝ If it had not been for William, …〕
cf. without ～；but for ～⇔ with ～（～があれば）

（3）「君がそのようなひどい風邪を引いていなければよかったのに。だってきっと（風邪を引かなかったら），ロック・コンサートを楽しんだだろう。」
○ wish ＋仮定法過去完了 で‘過去の実現しなかった願望’を表す。

（4）「彼らの車は故障したに違いない。さもなければ我々の客はずっと前に到着しているはずだ。」
our guests would have arrived long ago が帰結節で，その条件になるものが空所に入る。
otherwise ＝ if nothing had gone wrong with their car,

（5）「もし当時彼の援助がなかったら，私は今これほど成功していないだろう。」
○帰結節は仮定法過去だが，条件節は in those days と過去のことについての仮定となっているので仮定法過去完了にする。「～がなかったら」の意味を表すものは，if it had not been for の if の省略された形で倒置されている **a** になる。
b　unless を仮定法で用いるのはまれであり，また I had だと文脈にも合わないため不可。
c　not の後に been が抜けている。
d　仮定法過去だから不可。

【6】

解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第２版』の参照番号を示す。

（1） （A）persisted　（B）in　◆148

○ persist in ～「～に固執する」

cf. insist *on* ～（～を要求する）◆149 と前置詞を混同しないこと.

（2）（A）go （B）with ◆151

○ go with ～「～と調和する〔一緒に行く〕」

（3）（A）dispense （B）with ◆156

○ dispense with ～「～なしで済ます」≒ go〔do〕without ～

（4）（A）do （B）with ◆157

○ do with ～「～を処理する」cannot do with ～ で「～に我慢できない」。

（5）（A）done （B）with ◆158

○ have〔be〕done with ～「～を終える」

（6）（A）refrain （B）from ◆162

○ refrain from ～「～をこらえる」

（7）（A）suffering （B）from ◆163

○ suffer from ～「～で苦しむ」

（8）（A）referring （B）to ◆169

○ refer to ～「～に言及する」

cf. refer to A as B（A を B と呼ぶ）

（9）（A）see （B）to ◆170

○ see to ～「～に気をつける」to は前置詞。see to it that 節で「…するように取り計らう」。

（10）（A）take （B）to ◆173

○ take to ～「～が好きになる」to は前置詞。

（11）（A）object（B）to ◆179

○ object to ～「～に反対する」to は前置詞。

（12）（A）added （B）to ◆180

○ add to ～「～を増す」

cf. add A to B（B に A を足す）

（13）（A）amounted （B）to ◆181

○ amount to ～「～に等しい」（= add up to ～；be equal to ～）

○ amount の名詞としての意味は「量・総計」。

（14）（A）came （B）to ◆182

○ come to *one*'s senses「意識を取り戻す」

※「意識を取り戻す」なら come to が普通．その場合の to は副詞で「正常な状態へ」の意味.

（15）（A）lead （B）to ◆183

○ lead to ～「～に通じる」（= cause ～；bring about ～；give rise to ～）

（16）（A）broke （B）into ◆185

○ break into ～〔…ing〕「急に…し始める；～に侵入する」

※ burst into …ing は，break into …ing よりも，「予想外」という意味合いを含む。

(17) (A) come (B) of ◆189

○ come of age「成人に達する」

(18) (A) approve (B) of ◆190

○ approve of ～「～をよいと認める」

(19) (A) send (B) for ◆198

○ send for ～「～を呼びに人をやる」(= call in ～)

(20) (A) calls (B) for ◆199

○ call for ～「～を必要とする」(= require ～；demand ～；need ～)

5章　総合問題5

問題

【1】

A.

全訳

マルクスの中には２人の人間が，奇妙に混りあって存在している。すなわち，１人は哲学者，つまり思索する人で，他の１人は予言者，つまり扇動する人である。ⓐ前者は知性に訴え，後者は感情をゆり動かした。そして彼の影響はこの二重の基盤の上に築かれているのである。彼を両方の資格で崇拝している一派の人々によって，彼の名前は尊び敬われているが，その２つのうちのどちらが，より多くその尊敬の念に貢献しているか，決めることは難しい。しかし，その両者が一体化していることが彼の名声のかくれた理由である。前者は，研究や理論の探求にふける少数の人々の心を動かし，後者は，大きな呼びかけの声に応ずる多くの人々の心をひきつけてきたのである。彼の中にある２つの面のうち，時には一方が，またある時には他方が優位を占めたが，大体において思索的な要素の方が強かった。後年，彼は完全に研究と思索に没頭するようになって，実際に運動の先頭に立つことはやめてしまった。ⓑしかし，革命的な性向は彼の生来の性質の一部でもあって，動乱の環境が，感受性豊かな青年の魂をゆり動かした結果の産物，というだけではないのである。もっとも，その当時の出来事が彼に強い影響を与え，彼の生涯の方向をほとんど決定づけたのであるが。純粋な研究の体系のために身を献げると公言してからも，昔ながらの性質がしょっちゅう顔をのぞかせていた。ある批評家が言ったように，あの「科学的な」マルクスにおいてさえも，倫理的な判断と党派的な感情とが，しばしばそう遠くない所に並んでいたのである。

B.

全訳

我々にとって，「教育」という言葉は教室を意味するが，教室というものは，知識を伝達する目的で考案された，おそらく最も人為的な手段であろう。ⓐ他の社会では，たとえ正式な学校というものを持たなくても，社会そのものがちゃんと子供を教育するのだ，という事実を，我々はつい，すっかり忘れてしまいがちである。ⓑ子供たちは，魚釣り，狩り，家の建て方，古くから部族に伝わる知識を教えられるが，それはすべて意味のある活動的な自然の環境の中においてである。アフリカの子供たちは，木切れの束の平衡をとって落とさないで運ぶ方法を習得するために，そのような物体を頭へのせて列を作って行ったり来たり歩かされることはない。そうではなくて，彼らは畑から歩いて家へ帰れるくらいに成長すると，木切れを持つようにと渡される。そして彼らはごく自然に，それを，両親がするように，つまり頭にのせて運ぼうとするのである。この種の訓練は意味がある。というのは，その子供は実際に価値のあることをしているからである。それはたとえほんのわずかな貢献であるにしても，社会的および経済的な価値を持つ。多くの原始的文化をもつ社会では，子供たちは，我々の社会におけるよりも，ずっと多く，その社会のいろいろな活動に参加する。ⓒ焚き火

を囲んでの日没後の語らいに子供たちが顔を出すことは，単に許されているというのではなくて奨励されているのだ。子供たちはたいてい我々の社会の子供と比べると存在を必要とされているという感覚，その一員として所属しているという感覚をずっと強く持っている。したがって，しつけという問題も，我々の社会と比べるとそれほど必要とされることは多くないのである。

【2】

ポイント

（1）の下線部和訳は that 節内の主語が長い第５文型であることを読み取れるかがポイントである。（2）と（4）の説明問題は本文該当箇所を見つけるのは容易だがまとめ方に注意する。（3）では内容一致問題が出題されている。内容一致問題では該当箇所を見つけ，そこの言い換えとして正しい，あるいはそこから当然のことと推測がつくものを選ぶ。（今回一方の選択肢は消去法による一致としなければならないもので，少々あいまいである。）

解答

（1）「**全訳**」の下線部参照。

（2）愛する人を亡くして時間が経つと，細かな記憶とともに喪失の悲しみも薄れて，その人の思い出がよみがえっても耐えられるようになり，さらにそれを思い出したいとさえ思う状況。

（3）**b**，**e**

（4）初夏のある夕方，夕食後に納屋の入り口から父がレイチェルを呼んだ。行ってみると，まるで羽を開いたり閉じたりして光を集めるかのように輝いている大きな銀色の蛾を，父は「優雅だろ」と言って指差した。その蛾が舞い上がった時，父は大きな力強い手をレイチェルの背中に置いた。（130 字）

解説

（1）she had realized
S　V

{that {what made losing someone}（∧ who（m））you loved} bearable}
S”　V”　O”　C”
S’

was *not* remembering *but* forgetting}.
V’　C’
O

○全体は she（S）had realized（V）that … forgetting（O）の第３文型の文。

○ that 節の中は，関係代名詞の what 節（what … bearable）が主語，was が動詞，補語は not A but B「A ではなく B」の形になっている。remembering と forgetting は動名詞。

○ what 節の中は，someone と you の間に目的格の関係代名詞 who（m）あるいは that が省略されている。また，この部分は第５文型をとっており，動名詞の losing から loved までがその目的語で，bearable が補語である。

（２） then「その時」とは直接的には前文 After more time passed, … return.「さらに多くの時間が経てば，思い出をよみがえらせることができるし，よみがえってほしいとさえ思う。」を指すが，何についての「思い出」なのか，どのような過程を経てそうした状態に至るのかも説明する必要がある。

（３） 各選択肢の意味は以下の通り。**a**「彼はとても雄弁で論理的だったので，娘に自分の威厳を納得させた。」**b**「彼は決して率直ではなく，とても照れ屋だったので愛情をはっきりと示せなかった。」**c**「彼は職人で木工を専門とし，いかなる形の農業にも携わっていなかった。」**d**「レイチェルが死んだ赤ん坊のためできる限りのことをしている時，彼はまだ生きていた。」**e**「彼はレイチェルに農業について細かな指示を与えなかったが，彼女はそのことに不満ではなかった。」第１段落第２文から **a** が誤り，**b** は正解である。第１段落第５文 but 以下に「彼女は作物や動植物についてと，柵や小屋の建て方や修繕の仕方は学んだ」とあるので，父が農業に携っていたことは推測できるので **c** は誤り。次の第６文で「父は，自分では見守りながら，娘自身にそうしたことをやらせたのである。」とあるところから，**e** の「農業について細かな指示を与えなかった」と理解でき，そのことに対して不満との記述もなく，第３文後半に「子育てを十分上手にした」という内容があるので，これを正解とみなす。赤ん坊のゆりかごの話は第２段落に出てくるが，赤ん坊が亡くなったという記述はないので **e** は誤り。

（４） 該当箇所は第４段落第４文以降，段落最後までである。5W1H に気をつけてまとめる。

全訳

レイチェルは墓石の傍らに立った。彼女の父親は一緒に暮らすには大変な人だった。愛情表現が不器用で，決して口数が多くなかった。しかし彼は娘を育てたのだ。そしてレイチェルは，父が男手１つで子育てをしたどんな男性にも劣らず上手に子育てをしてくれたのだと考えた。レイチェルは衣食に不自由したことは一度もなかった。父が娘に教えなかったこと，おそらく教えることができなかったことはたくさんあったが，彼女は作物や動植物について，そして柵や小屋の建て方や修繕の仕方をも学んだ。父は，自分では見守りながら，娘自身にそうしたことをやらせたのである。

彼女は墓石に触れ，その硬さを感じた。そのことで，亡くなる２週間前に父が作ってくれたゆりかごのことを思い出した。父はそのゆりかごを持って入って来て，彼女のベッドの脇に設置した。赤ん坊のためにそれを作ったと認めることを一言も言わないでである。しかし，彼女は，そのゆりかごを作る時の父の払った細心の注意と，存在する中で最も硬く長持ちする木であるヒッコリーからどのように父がゆりかごを作ったのかわかった。その上，父は長持ちするだけではなく上品に見えるように作ったのである。牛脂でそれを滑らかにし磨いていたからである。

レイチェルは，自分の生涯より長持ちするであろうとわかるその石から手を離した。ということは彼女の悲しみよりもその墓石が長くあり続けるということだった。「私は父を聖なる大地に埋葬してもらい，父が亡くなった時に身につけていた衣服を燃やしたのだ」とレイ

チェルは自分に言い聞かせた。私は死亡証明書にサインをし，そして現在，父の墓石が立っている。私はできることはすべてやったのだ。自分にこう言い聞かせた時，レイチェルは胸の内の悲しみが，決して抜け出すことができない終わりなき暗闇の淵であるかのように感じるほど，とても広く深くなるのを感じた。今となってはそれに耐えること以外何もすることが残っていなかった。

何か幸せなことを考えよう。父がしてくれたことを，と彼女は自分に言った。どんな些細なことでもいい。しばらくの間，何も思い出さなかった。そしてあることが浮かんだ。初夏の夕方の思い出である。夕食の後，父は納屋に行って，レイチェルは庭に出た。父は納屋の入り口から彼女に声をかけた。彼女が納屋に入ると，父は「優雅だろ？」と尋ねた。父は大きな銀色をした蛾を指差した。納屋の光の縞はぼやけてきたが，蛾は輝いているように見えた。ゆっくりと羽を開いたり閉じたりすることで，まるでその夕暮れの最後の光を集めているかのようだった。そして，その生き物は舞い上がった。蛾が夜の帳（とばり）の中へと飛び出した時，父は大きな力強い手を上げ，その手を少しの間彼女の背中に置いた。そうしながらも，彼女の方には向かなかった。薄明かりの中にいる蛾と，背中に置かれた手の感触が記憶によみがえったのである。

車に乗って家に帰る時，葬儀後数日間を思い出した。家ではいかに沈黙が支配していたか，そして，何かを借りるか返しに叔母のところに行くことなしには1日たりとも耐えられなかった。そしてある朝，彼女は悲しみが和らぐのを感じ始めた。その同じ日に，レイチェルは父がどちら側で髪を分けていたかを思い出すことができなかった。そしてⓐ愛していた人を失うことに耐えられるようになるのは，思い出すことではなく，忘れ去ることだと彼女は悟った。初めに，父が入浴する際に使っていた石鹸のにおいや，父が教会に着て行った服の色のような細々としたことを忘れてしまった。それからしばらくすると，父の声の感じと髪の毛の色も忘れてしまった。どんなに多くのことを人は忘れてしまうのかとレイチェルは驚いた。そして，忘れ去ったすべてのことが，愛していた人を心の内であまり生き生きしたものでなくさせ，ついにはその喪失感に耐えることができることに驚いた。さらに多くの時間が経てば，思い出をよみがえらせることができるし，その思い出がよみがえってほしいとさえ思う。しかし，そうした時でさえ，初めの頃に感じたことがよみがえり，悲しみがまだ胸の中にあることを思い起こさせるのだ。

注

ℓ.1 ◇ tombstone *n.*「墓石」

ℓ.7 ◇ firmness *n.*「硬さ」

◇ cradle *n.*「ゆりかご」

ℓ.8 ◇ not speaking a single word acknowledging he had made it for a baby

○ speaking は付帯状況を表す分詞構文, acknowledging は word を修飾する現在分詞。

○ acknowledging の後には接続詞 that が省略されており，he had made it for a baby が acknowledging の目的語になっている。

ℓ.10 ◇ hickory「ヒッコリー（北米産クルミ科の木）」と the hardest and most lasting wood there was は同格。wood の後には関係代名詞 that が省略されている。

ℓ.14 ◇ grief *n.*「悲しみ」

ℓ. 16 ◇ certificate *n.*「証明書」

ℓ. 19 ◇ Think of something happy, she told herself, something he did for you.

○ she told herself は挿入されている。something happy と something he did for you は同格。

○ something と he の間には関係代名詞 that が省略されている。

ℓ. 21 ◇ barn *n.*「小屋；納屋」

ℓ. 24 ◇ dim *adj.*「ぼんやりとした」

ℓ. 25 ◇ the creature「その生物」moth「蛾」のこと。

ℓ. 29 ◇ funeral *n.*「葬儀」

【3】

ポイント

日本語で話す場合に比べて，英米人の会話では身振り手振りが多いことはよく指摘されるところである。ボディランゲージとは，身振りや表情などで自分の思考や感情を伝達するもので，言語によって表現方法が異なることも多い。「何パーセントの～」という数量表現や，「AではなくB」といった表現も確実に押さえておこう。

解答

About 70% of the message in an everyday conversation among English speakers is passed on not by words but by body action. Even if you don't speak English, you can easily understand people's feelings from how they act, because it's all written in their body language.

別解

In a normal everyday conversation between British or American people, approximately 70 percent of what they want to convey is communicated physically, not verbally. In other words, it's all written in their body language. Therefore, even if you don't speak English, it is easy to read people's feelings from their actions.

解説

第１文は，「AではなくB（によってである）」という構文なので，'not A but B' を使うことができる。主語は「～の約 70 パーセント」なので，「～の約 70 パーセント（S）is 伝えられる（V）*not* by A *but* by B」という構文を組み立てる。

第２文の構造は「～だから，たとえ…でも，～である」とやや複雑に見えるが，「～を知るのは容易なことだ」が骨格であることがわかれば，形式主語構文を用いて it is easy to …とすることもできるし，you can easily …とすることもできる。「たとえ…でも」は '譲歩' の節，「～だから」の部分は，'理由' を表す副詞節にするのが忠実な訳し方だが，無理に１文で表現しようとせず２文に分けて訳してもよい。

第２文の「それらはすべて相手のボディランゲージで書いてある」は，第１文の「伝えたい事柄～は，言葉ではなく体で伝えられている」の言い換えに当たるので，第２文の前に in other words（つまり）と補って訳してもよい。

○「日常会話」(a〔an〕)（normal）everyday〔daily〕conversation(s)

○「伝えたい事柄」what S want to convey。1語で表すなら message が適切。
○「約；およそ」about，approximately
○「～（＝メッセージ・情報など）を伝える」convey ～，communicate ～，pass（on）～
○「言葉で」「体で」の「～で」は前置詞 by や through で表すことができる。
○「ボディランゲージ」body language
○「相手がどのように感じているのか」直訳して how the other people feel としてもよいし，「他人の感情がどのようなものか」のように読み換えて what the other person's feelings are とすることもできる。あるいは「人の感情」のように読み換えて，people's feelings とすることもできる。
○「相手の動き」how〔the way〕they act，their actions
○「知る」は understand の他，「読み取る」と考えて read を用いることもできる。

【4】

解答・解説

（1） unless
「一生懸命勉強しないと失敗すると彼に注意した。」
○命令文，or ～「…しなさい，さもないと～」
cf. 命令文，and ～（…しなさい，そうすれば～）
○ unless …「もし…でなければ」

（2） fact that
「私たちは次のバスを1時間待たなければならず，とてもいらいらした。」
○ the fact that 節「…という事実」that は‘同格’の名詞節を導く接続詞。

（3） but，as well
「彼女は忠告をしてくれたのみならず，お金もくれた。」
○A as well as B = not only B but（also）A = not only B but A as well「Bのみならず A」

（4） With
「咳をするたびに彼女はかなりの痛みを感じた。」
○ Each〔Every〕time S'＋V', S＋V = Whenever S'＋V', S＋V「S'がV'するたびに，SはVする」
○（　　）every cough S＋V という構造なので，空所には前置詞が入る。‘原因・理由’の with を入れると慣用的にも正しい文となる。

【5】

解答

（1） **b**	（2） **c**	（3） **c**	（4） **d**	（5） **a**	（6） **b**
（7） **d**	（8） **c**	（9） **b**	（10） **d**	（11） **d**	（12） **b**

解説

（1）「ある文化では，来世は幸福と繁栄の新しい生活としてみなされているので，葬式で

は派手な色が常に着てもよい色となっている。」

a　but だと文意が不自然。

b　so「そこで」‘結果’を表す接続詞。

c，**d**　for（等位接続詞），because（従属接続詞）は‘理由’を表すが，「来世が幸福と繁栄の新しい生活と考えられているのは，葬式で派手な色が着てもよい色であるから」となり因果関係が逆になってしまう。

○ hereafter「来世」

○ think of A as B「AをBとみなす」

（2）「このコンピュータは強力で，効率がよく，使いやすい。しかしながら，値段が高すぎる。」

a　although ＝ though「…だけれども」‘譲歩’を表す接続詞。

b　despite（前置詞）「～にもかかわらず」

c　however「しかしながら」

d　whether or not「いずれにしても」＝ in any case

（3）A：「天気のいい日だね。」

B：「ええ，だけど少し寒いわ。」

b　in spite of ～「～にもかかわらず」

c　though「でも」文尾または挿入的に用いる副詞。

○ although には副詞の though のような用法はないので，この場合は不可。

（4）「このビルは消防の検査に通らなかった。それゆえ年の終わりまで閉鎖される予定だ。」

a　nevertheless「それにもかかわらず」（＝ however；nonetheless）

c　since「…以来；…なので」‘時’や‘理由’を表す。

d　therefore「それゆえに」

○ pass ～「～に合格する」

○ for the rest of the year「その年の残りの間」

（5）「彼女があなたの言っていることを信じているのは確かだ。」

a　that「…ということ」の意で名詞節を導く。

cf. be certain that 節（…は確かだ）

b，**c**，**d** は文が成り立たない。

（6）「彼は授業に来ると思うか。」

「彼が来るか来ないかなんて僕には関係ないよ。」

b　whether A or not「Aであるかないかということ」ここでは名詞節になっている。

c　if he comes or not は目的語の節に用い，主語の節にはなれない。

（7）「雨が降ろうと降るまいと，藤田はピクニックを催すつもりでいる。」

a　as to whether it rains or not「雨が降るか降らないかということに関しては」という意味になり，文意が不自然。

b，**c**　depend は自動詞なので，depend on〔upon〕～（～による）の形で用いる。ただし，口語では on〔upon〕は省略されることもある。

d　whether A or not「Aであろうとなかろうと」ここでは‘譲歩’を表す副詞節になっている。

（8）「花子はもはや，ほとんど友達とさえも遊びに行かない，今では結婚して２人の子供がいるからだ。」

a　as soon as …「…するとすぐに」

c　now（that）…「今では…なので」

d　in case …「…の場合は；…するといけないから」

○ hardly ever「ほとんど…しない」ever は強調。

（9）「私たちは予期していなかっただけに一層うれしかった。」

a　more と比較級があるので安易に than だと思ってはいけない。

cf. She was *more* delighted *than* I had expected.

（彼女は私が予期していた以上に喜んだ。）

b　all the 比較級 because〔for〕～「～なのでより一層…」

(10)「非常事態の場合，他の指示がなければできるだけ素早く建物から離れなさい。」

d　unless（you are）otherwise instructed

○ unless …「…の場合を除いて」‘条件’を表す。

○ otherwise（副詞）「違ったふうに」

○ in case of ～「～の場合は」

(11)「あの人たちに何１つばかなことを言いたくなかったので，私はまったく一言も言わなかった。」

d　so ～ that …「非常に～なので…」

○ I was so anxious not to say anything ～ . の so anxious が文頭に出て倒置が起きたもの。

○ be anxious to …「…することを切望する」

○ never ～ anything at all ＝ nothing at all

(12)「彼は実際に我々の計画について何も知らなかったのに，まるでそれらについてすべて知っているかのように話した。」

b　as though〔if〕＋仮定法過去「まるで…であるかのように」

○ when「…なのに」‘対照・譲歩’を表す。

【6】

解答・解説

◆は『解体英熟語 改訂第２版』の参照番号を示す。

（1）（A）longs　（B）for　◆200

○ long for ～「～を切望する」

○文中の but は否定文中の語を先行詞とする関係代名詞で that … not（…しないところの）の意味。

（2）（A）account　（B）for　◆203

○ account for ～「～の理由を説明する」

（3）（A）answer　（B）for　◆205

○ answer for ～「～に責任を負う」

（4）（A）make （B）for ◆207

○ make for ～「～に役立つ；～に進む」

（5）（A）counts （B）for ◆209

○ count for ～「～だけの価値がある」

e.g. count for little〔nothing〕（ほとんど〔まったく〕重要ではない）

（6）（A）aiming （B）at ◆212

○ aim at ～「～をねらう」

（7）（A）live （B）on ◆216

○ live on ～「～を常食とする」

（8）（A）act （B）on ◆218

○ act on ～「～に作用（影響）する」

（9）（A）tell （B）on ◆219

○ tell on ～「～に効き目がある」

（10）（A）got （B）on ◆223

○ get on *one*'s nerves = give *one* the nerves「人の神経にさわる」

cf. have the nerves to …（あつかましくも…する）

（11）（A）hit （B）on ◆224

○ hit on ～「（人が）～を思いつく」

（12）（A）reflected （B）on ◆225

○ reflect on ～「～を熟考する」

（13）（A）dwelt〔dwelled〕（B）on ◆226

○ dwell on ～「～について長々と話す〔書く〕」

（14）（A）count （B）on ◆229

○ count on ～「～を頼りにする」

（15）（A）Hang （B）on ◆232

○ hang on「待つ；電話を切らずにおく」

※この意味で hang on を用いるのは，イギリス英語の用法。アメリカ英語なら hold on。

（16）（A）came （B）across ◆237

○ come across ～「～に偶然出くわす」

（17）（A）go （B）into ◆240

○ take the trouble to …「わざわざ…する」

○ go into ～「～を詳しく調べる〔論じる〕」

（18）（A）get （B）over ◆246

○ get over ～「～を乗り越える；～から立ち直る」

（19）（A）takes （B）after ◆247

○ take after ～「～に似る」

※目的語は，親・祖父など年上の直系親族を表す語に限られる。

○「彼女は私の母に似ている。」

× She takes after my mother.

○ She looks like my mother.

(20) (A) set (B) about ◆248

○ set about ～〔…ing〕「～〔…すること〕を始める」